

埼玉県 加須市

加須市地域雇用創造協議会



米など地場産の農産物を活用した新商品開発を行い、加須ブランド化を目指す。農家、商店及び企業の連携を図り、六次産業化を推進することで新たな雇用創出を実現する。

加須市は、埼玉県の北東部、利根川中流域にあり、都市機能が集積する市街地と水と緑の豊かな農村地域が調和するまちである。当該地域では、県内1位の米の収穫量を誇る水稻農業を中心であるが、高齢化に伴う後継者不足等により農家の減少が進み、また、大型店舗の出店等による商店の減少により中心市街地の空洞化が進んでいる。こうした課題に対応するため、農産物を活用した六次産業化や異業種連携による商品開発、商品のブランド化や企業の経営革新、事業拡大への支援等により、雇用機会の拡大を目指す。



人が繋ぐ「かぞ」雇用創造プロジェクト ～地域資源を活かした魅力ある元気都市を目指して～

1. 地域の特徴及び事業の概要

■ 地域の特徴

人口	H22 115,002人	H27 112,229人			
労働力人口	H22 62,594人	H27 60,291人			
有効求人倍率 (季節を除く一般)(パートを含む)	H24 1.01	H25 1.07	H26 1.12	H27 1.35	H28 1.43
産業構成(就業者数) (平成27年度国勢調査)	第1次産業 2,631人	第2次産業 16,350人	第3次産業 35,818人		
業振興において重点的に取り組んでいる分野	■地域ブランド開発分野 ■農商工経営力強化分野				

■ 事業の概要

協議会名	加須市地域雇用創造協議会
協議会の主な構成団体	加須市、加須市観光協会、行田地区雇用対策協議会、ぼくさい農業協同組合、 加須市商工会、加須手打ちうどん会、加須金融団、埼玉県加須農林振興センター
委託費総額	（実践型事業）169,307(千円)
主な事業	【雇用拡大メニュー】■農商工経営力強化セミナー ■地域ブランド開発セミナー ■成果物公開セミナー 【人材育成メニュー】■商工分野能力養成セミナー（初級）・（中級） ■食品開発・食品加工セミナー 【就職促進メニュー】■就職面接会 ■情報発信事業（ホームページ活用） 【雇用創出実践メニュー】■地域ブランド確立事業

2. 地域の課題と事業実施のねらい

■ 地域の課題

都市機能が集積する市街地とその周辺に広がる水と緑の豊かな農村地域が調和する“鯉のぼりとうどんのまち”として知られているが、高齢化が進行し後継者不足により、果樹栽培農家を含む農家数が減少している。また商店数も、大型店の出店の影響で販売力が低下し、高齢化・後継者不足もあり減少している。市内事業所は、個人経営や中小・零細企業が多く経営基盤の強化が大きな課題となっている。さらに、人材を求める企業と希望の職種の就業を望む求職者との労働力需給のミスマッチ解消も課題である。

■ 事業実施のねらい

事業主：農家等の経営革新による基盤強化を図り、安定した事業化を進めることによって雇用創出を図る。また、異業種間連携の六次産業化を推進することで、地元農産物を活用した新商品を開発しブランド化を進め雇用創出を図る。さらに求職者に対し、企業が望むスキルアップを習得するセミナー・就業意欲の向上に繋がるセミナーの開催及び就職面接会の開催で就業機会を増大させるほか、求職者が望む情報を提供したり、労働力需給のミスマッチの解消を図ることで就業者の増加を目指す。

3. 事業内容と成果

【事業全体】

●農家や事業主・創業希望者を対象に、農・工・商のバランスの取れた産業振興を進め、経営基盤の強化を図るセミナーと、商品のブランド化や経営の多角化を目指す六次産業化のノウハウを習得するセミナーを開催した。すぐに結果が現れるものではないが、講座の構成、参加者増加の工夫が必要である。求職者対象のセミナーでは、求職者が求める講座内容や募集方法を工夫した結果、多くの受講者を確保でき、アウトカムの向上に繋がった。就職面接会では、求職者が求める企業の参加を募ると共に、開催の周知に力を入れ、参加者が増え、就職者も增加了。地元で働きたい転職者も多く見られた。実践メニューでは、地元農産物を活用して魅力ある新商品を開発し、事業者を募り、加須ブランドの確立を目指した。多くの事業者が新商品を開発し販売に至っている。今後、商品のブラッシュアップ、付加価値向上に取り組み、安定した事業化を進められるよう支援する。



成果物公開セミナー試食会



農商工経営力強化セミナー

【雇用拡大メニュー】

●個人商店や家内事業所などの中小・零細企業も含め一般企業の経営力向上を図るために、ビジネスプランや経営戦略の立て方、事業の効率化、労務管理、IT活用等の経営基盤強化を促す「農商工経営力強化セミナー」と、六次産業化のノウハウを習得し、生産・加工・販売まで行うことで、農産物に付加価値を付け商品のブランド化や経営多角化による安定した収益向上を目指す「地域ブランド開発セミナー」を開催し、雇用の創出・拡大を図った。事業規模を拡大する企業もあり、アウトカムの目標値は達成できた。また、実践メニューで開発した新商品を紹介する「成果物公開セミナー」を開催したところ、多くの事業者が参加し、農家や加工業者など多くの方からレスポンスの提供依頼があった。認定事業者として商品開発に取り組んでいたところからは多くの商品が生まれ、創出した方も現れた。



ブラックボードPOP講座

【人材育成メニュー】

●「商工分野能力養成セミナー」では、求職者の就職に向け、必要とされるビジネスマナー・コミュニケーション能力、IT等のスキルアップを習得するセミナーを開催し、幅広い分野での雇用機会を図った。また、当市では食品製造関連企業の比率が高く、「食品開発・食品加工セミナー」を開催し、食品製造・食品加工についての知識を習得することで、関連企業への就職を支援した。セミナー・参加者の増加を図るために、求職者が求める新たな職場でのスキル向上や就業に対するモチベーションの向上に繋がる講座構成に努め、講座内容がわかりやすく伝わるような募集チラシを作成し、手軽に申込みができるようQRコードを表示したところ、スマホからの申し込みが増大し、受講者が大きく増加した。アウトプット・アウトカムの増加に繋がった。また、開催日毎に受講者の出欠を管理し、空きがでたら随時キャンセル待ちの方に連絡し、受講していただいている。



就職面接会

【就職促進メニュー】

●ハローワークと密に連携し、就職面接会を開催し就業機会の拡大を図った。併せて、ホームページ等で、求人情報や各種セミナー等情報提供を行ない支援した。就職面接会では、開催の周知に力を入れ、セミナー・受講者やハローワーク等での求人情報誌やチラシを配布するほか、市広報紙でのチラシ全戸配布、駅のポスター掲示、フェイスブック広告など、ハローワークに足を運ばない新たな求職者の発掘を行い、参加者及び就職者の増加となった。

【雇用創出実践メニュー】

●地元農産物を活用し、六次産業化の推進や産業連携による新商品の開発を行い、加須ブランドの確立を目指した。平成27年度は、「いちじく」を活用した「いちじくの加工品」を、平成28年度は、米どころ加須のコシヒカリから作った米糀を活用した「米糀甘酒商品」と、市内バラ栽培農家から生花の提供を受け、「プリザーブドフラワー」の開発を行なった。当事業で開発した新商品のノウハウは、成果物公開セミナーにおいて、農家・事業者等に情報提供を行ったところ、多くの事業者からレシピの提供依頼があり、認定事業者として決定し、商品開発に取り組んだ。開発事業者に対し、商品デザインや販路開拓等幅広い支援を行い、数多くの商品が生まれ、販売に至っている。さらに商品のブランシュアップを図り、安定的で継続的な事業化を進め、事業を拡大することにより新たな雇用創出を目指す。

就職促進メニューにおいて、求職者への周知では管内ハローワークの協力が不可欠だが、主婦層など新たな働き手の掘り起しには、市庁報紙による全戸配布が効果的である。人材育成メニューでは、求職者が抱く新たな職場でのスキル・情報不足の不安解消と、就業に対するモチベーション向上に繋がるセミナー構成を目指す。またセミナーを受講した事業主や創業希望者及び認定事業者が交流する場の設定も大事である。

ポイント



フルーツ甘酒プリン



プリザーブドフラワー商品

■アウトプット指標

	平成27年度			平成28年度			平成29年度		
	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率
雇用拡大	50 社	38 社	76.0%	70 社	115 社	164.3%	70 社	—	—
人材育成	120 人	103 人	85.8%	180 人	253 人	140.6%	180 人	—	—
就職促進	40 人	84 人	210.0%	60 人	108 人	180.0%	60 人	—	—

■アウトカム指標

	平成27年度			平成28年度			平成29年度		
	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率
就職創業者数	58 人	88 人	151.7%	84 人	140 人	166.7%	84 人	—	—

成果物の紹介

■いちじくの加工品

いちじくは加須市が県内最初の栽培地で、生産量も県内有数である。加須の特産であるいちじくを活用して、いちじくの加工商品を開発し、加須ブランド化を目指した。いちじくは、美味しい柔らかで健康にも良く女性に人気が高い果実だが、日持ちはず雨にも弱く廃棄率が高いのが生産者の悩みの一つ。収穫時期に生食用で流通できなかつたいちじくを素材に、一年中美しく食べられるよう加工した商品として、「ドライいちじく」「いちじくの甘露煮」「いちじくのワインコンポート」「いちじくのチャツネ」の4商品を開発した。



いちじくの加工品

■プリザーブドフラワー

切り花業界での成長分野として期待の高いプリザーブドフラワーの開発に取り組んだ。プリザーブドフラワーは、耐久性や色の鮮やかさが利点。花粉の心配も無い。取引価格が高価で、小ロットでも十分に利益の見込める商品である。市内バラ栽培農家から、生花の提供を受けて製作に取り組み、花卉農家や花屋さんなどが商品としての開発に取り組んでいる。現在2業者が自ら製作してアレンジをした商品の販売を開始した。



プリザーブドフラワー3点

■米糀甘酒とその加工品

加須市は、県内一番の米どころで、地場産の「米」と加須の「伝統的な食文化技術」を活用して「米糀甘酒とその加工品」の商品化に取り組んだ。加須産のコシヒカリから作られた米糀を地元のみぞ加工業者より提供を受け、地域の皆様や地元高校の食育実践科の教諭と生徒のアドバイスを受け、「米麹甘酒(濃縮タイプ)」「あまさけシャーベット」「甘酒プリン」「甘酒プリン(高齢者向け)」の4商品を開発した。



米糀甘酒とその加工品

4. 事業推進において生じた課題と解決に向けての取組

基本メニュー

【課題】

- 事業主対象セミナーでは、事業規模、業種等々で、創業希望者を含めた共通の課題でのセミナー構成が必要。
- 就職面接会では、求職者が望む職種の企業参加を数多く得るとともに、「最新」の求人内容にするため開催準備期間の短縮が必要。

【解決に向けての取組】

- 事業者が抱えている課題、求めている講座内容など幅広く収集整理し、地元に密着した適材の講師を発掘し講座を構成する。
- ●広く就職面接会開催の周知を図ると共に、求人状況の把握に努める。開催準備においては、ハローワークの協力を仰いで求人情報誌や開催チラシの作成期間の短縮を図り、新着の求人情報を取り込みを可能にする。

実践メニュー

【課題】

- 六次産業化における新商品は、その生産規模・流通適性がはじて未熟であり、庭先販売や道の駅、農産物直売場など地域内での販売に留まっているものが多い。今後、これらを地域外に流通させて事業といえる売上・収益規模に育てる必要がある。

【解決に向けての取組】

- 商品のブランシュアップによる商品価値や訴求力の向上、流通温度帯や保存期間の拡大など流通適性の向上に取り組むと共に、商品・事業者個々に販路を分散して開拓するのではなく、加須統一ブランドの下、販売手法を共有する仕組みに取り組む。併せて、創業者や新商品開発、ブランド発信に関する行政の支援制度を充実することも必要である。

5. 地域の声

【協議会担当者】



人材育成メニューでは、スキルアップだけでなく、コミュニケーションの取り方、就業に向けたモチベーションの向上を図るセミナーが効果的です。「仕事を辞めて落ち込んでいたが、セミナーを受講してもう一度頑張ってみようと思いました」との感想を聞くと、就職促進を目的としたこの事業に携わっている意義を改めて感じます。

【行政担当者】



本市では、企業誘致による働く場の確保やふるさとハローワークの設置などによる雇用環境の充実を図ってきました。本事業では、中小企業の経営改革や農産物の付加価値向上に取り組み、事業拡大に伴う雇用創出が見られました。今後もノウハウの提供を受けた事業所による六次産業化の進展と、一層の雇用創出を期待しています。

【連携企業】



プリザーブドフラワーのアレンジをするには、花材を専門店で購入するしか手段がなく、花材自体が高価な点が難点でした。協議会の成果物公開セミナーを受け、自分で作ってみるとよいレシピの提供をお願いしました。今では加工技術の向上に励み、商品のブランシュアップを重ね創業でき、オリジナルの商品の製造販売に至っています。

6. 事業終了後の取組と今後の方向性

■企業と求職者への支援による雇用創出

本市では工業団地内の企業をはじめとして、人材確保が困難であるという企業は多く、また、求職者は希望する職種に就職できないという求人・求職ニーズのズレによる雇用のミスマッチが多く見られる。この労働力需給のミスマッチの解消に向けハローワーク等関係機関との連携を密にして、今回の事業で得たノウハウを活用した就職面接会や就職支援セミナー等を開催し、就職に向けた支援を行うことにより地域の雇用創出を図っていく。

■農・工・商連携による地域経済の活性化

本市は埼玉県内の一の米の生産地であるとともに、イチジクやなしなどの果樹栽培も盛んではあるが、総農家数は減少している。このため、農家は単に一次産品を生産するにとどまらず地元の農産物を活用した商品開発や商品の加工を手掛け、商店等の販路を確立するなど他産業との連携を図りながら六次産業化を推進することにより、農工商の連携による地域経済の活性化を見込む。

■地域資源を活用した商品のブランド化

本市では市内の優れた産品や製品、農産物等を地域ブランド品として認定する「かぞブランド」認定制度を平成28年度に制定した。今後充実を図り、さらなる産業振興を図る。



異業種交流会「自慢の一品」



甘酒プリン販売(花咲徳栄高校)